

視 察 報 告

ネットワークみらい・松本充浩



○日 程 2023年6月5日（月）～
2023年6月7日（水）

○視察先 ①山口県周南市、産業振興部 商工振興課
②和歌山県和歌山市、企画政策部 移住定住戦略課
こども未来部 子育て支援課

○視察者 松本 充浩、宮邊 和弘、甲斐 高之、馬見塚 剛

◀ 一日目 ▶ 6月5日（月）

- ・視察先 : 周南市商工振興課
- ・対応者 : 山根 正敬（商工振興課 コンビナート脱炭素室 室長
補佐）
松尾 陽加（商工振興課 コンビナート脱炭素室）
井尻 帆乃香（商工振興課 コンビナート脱炭素室）
- ・視察内容 : ①水素利活用計画について

(概要及び所感)

- 周南市は山口県の東南部に位置し、平成15年4月21日に徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町の2市2町が合併し、新たに「周南市」として生まれ変わり、現在に至っている。現在の人口は137,000人で、沿岸部は工業地帯となっており、コンビナート群の夜景の美しさにも定評があり、これを楽しむための「ナイトクルージング」も実施されているところである。
- 周南市と「水素」の関りは古く、輸入する原塩・石炭・ナフサから苛性ソーダ、塩化ビニルモノマーを生産する過程で大量の水素が発生することが、利活用計画に至る発端である。当初は副産物としての「水素」を燃料として利用するのみであったが、平成19年に全国初の実証「水素タウンモデル事業」を実施した。この実証事業で、工場の副生水素を、敷地外に設置した二重管の水素パイプラインで、一般家庭への燃料電池への供給やエネルギーとして活用する実証事業を行ってきた。
- 水素利活用先進市として全国から注目されてきたこともあり、私たちが訪れた地方卸売市場青果部には、かつては燃料電池フォークリフトが1台稼働し、隣接する敷地の一角には、平成27年に中四国初の水素ステーションが開設されているが、残念ながら、燃料電池フォークリフトは現在稼働を中止している状況であった。現時点では費用がかさみ過ぎるため、現状では採算が合わないためとのことである。
- 周南市役所には2台の燃料電池自動車（TOYOTAの「みらい」とHONDAの「クラリティ」）が配備されており、市民等を対象にした「無料カーシェアリング」や地域コミュニティ交通「もやい便」として活用されていた。地方卸売市場の視察を終えてホテルまでの送迎に、この「みらい」の乗せていただいたのには恐縮したが、静かで乗り心地の良いものであった。
- 化石燃料を燃やし副産物として発生する水素を「グレー水素」といい、水を太陽光などの自然由来の電気で分解して生成した水素を「グリーン水素」と呼ぶ。「カーボンニュートラル」や「脱炭素」の観点からも、この「グリーン水素」の利活用が今後の「鍵」になってくるのは言うまでもなく、国も積極的姿勢を見せており、現在、この「グリーン水素」を活用した各種取組がされようとしているが、ネックとなるのがプラント建設等に莫大な費用が必要なことである。水素利活用をさらに前進させるためには、国が思い切った財政措置を行う以外に道はないと感じた周南市の視察であった。

◀ 二日目 ▶ 6月6日(火)

- ・視察先 : 和歌山市、移住定住戦略課、子育て支援課
- ・対応者 : 松井 宏晃(移住定住戦略課 課長)
一ノ瀬 真志(移住定住戦略課 事務副主査)
森島 大介(移住定住戦略課 事務主査)
辻 美紀(子育て支援課 班長)
中畑 亜美(子育て支援課 事務副主任)
- ・視察内容 ①移住・定住に関する支援制度について

(概要及び所感)

- ・和歌山市は和歌山県の北部に位置する人口352,000人の中核市で、新大阪や難波駅から1時間以内の交通アクセスの場所にあり、瀬戸内海の一部を占め、緑あふれる豊かな自然と、黒潮がもたらす温和な気候に恵まれている。江戸時代は徳川御三家(水戸・尾張・紀州)の一つとして、8代将軍・徳川吉宗の出身地としても有名であり、和歌山城も名城として名高い。
- ・高齢化と人口減少問題は、和歌山市に於いても例外ではなく、海と山の豊かな恵みと大阪圏から1時間という「地の利」生かした移住政策事業に力を注いできた経緯がある。ここ数年は、コロナ禍の状況もあり、リモートワーク・テレワークしながらの移住も増加傾向で、移住者の移住元も大阪が最多で、次いで東京都、兵庫県となっている。
- ・移住支援金としては、東京圏からの移住は100万円、和歌山県外からの移住は50万円が支給される。東京圏からの移住が100万円と優遇されている理由を聞いてみると、国の「東京一極集中解消」の取組と目的が一致したためとのことである。また、子育て世帯への加算額が令和5年4月1日から30万円から100万円へアップしていることを質問すると、岸田総理の「異次元の子育て支援策」を受けての取組とのことであった。財源は大丈夫なのかと若干心配にはなったが、「移住」に対して使えるものは何でも利用するという姿勢は見習うべきものがあると感じた。
- ・風光明媚な気候風土と歴史的遺産(和歌山城・熊野古道)などが多く存在する和歌山市の魅力を最大限に活用して、移住者を獲得しようとする移住戦略課と子育て支援課のみなさんの奮闘ぶりに共感すると同時に本市魅力発信局にも更なる奮起を願うものである。